

令和3年5月8日

# 妻木平遺跡 発掘調査現地公開資料

土岐市教育委員会  
公益財団法人土岐市文化振興事業団  
調査機関／株式会社イビソク

## 妻木平遺跡の調査について

土岐市教育委員会では、平成22年度から妻木南部土地区画整理事業に伴う発掘調査を行っています。これまでに約27,000㎡の調査を実施し、様々な時代の建物跡や土器、陶磁器、木製品等が多数見つかっています。今回の調査地点は、平成25、26年度調査で確認した室町時代の堀跡の北側部分に位置し、調査面積は約4,100㎡です。昨年11月から発掘作業を始め、今年の6月頃終了する予定です。



遺跡の位置図

とっても重要な  
遺跡です！

来年度から遺構や遺物の整理や分析を行います。今後、その成果を土岐市美濃陶磁歴史館などで公開し、妻木平遺跡の歴史的変遷や重要さをご紹介します！



## 妻木平遺跡ってこんな遺跡

つまぎたいら  
妻木平遺跡は土岐市南部の妻木町に位置し、遺跡範囲は南北975m、東西375mを測る市内でも有数の広さを誇る遺跡です。

本遺跡は、西側を流れる妻木川によって形成された河岸段丘の段丘面上に立地しています。段丘面は、一般的に水はけがよく、安定した地盤

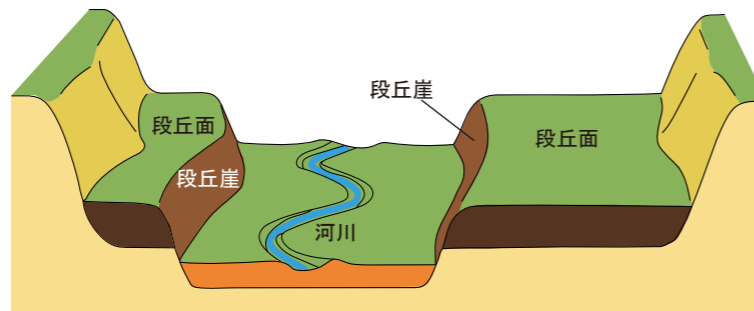
で災害に強い場所であるため、妻木平遺跡に居住していた人々はその場所を理解していたことがうかがえます。

発掘調査により縄文時代から近現代の長期間にわたって、主に居住空間や田んぼとして土地利用されていたことが分かっています。その中でも、見つかった遺構や遺物から古代（奈良時代～平安時代）と中世（鎌倉時代～室町時代）に重要な場所であったことが明らかとなっています。

土岐市内でこれ程長期にわたって様々な遺構や遺物が確認された遺跡は他にみつかりません。周辺には妻木城や妻木城土屋敷、妻木窯下古窯跡群などの遺跡や、八幡神社、崇禅寺など古くからの寺社が点在しているため、妻木町の歴史を知る上でも非常に重要な場所です。

### 河岸段丘とは

地殻変動による土地の隆起や気候の変化によってできた、川より高い平坦面（段丘面）と削られてできた崖（段丘崖）からなります。



河岸段丘の模式図

## 今までの調査で分かったこと～土地利用の移り変わり～

### 古代

出土した焼物や建物の痕跡から**寺院関連遺跡**あるいは**地域の拠点集落**であったと考えられます。

### 鎌倉時代 (中世前期)

南北35m以上、東西36m以上の方形に区画された溝と、溝の内側からは掘立柱建物の痕跡が確認され、これらの遺構は文献史料から**荘園を管理する領主の館**と推定されます。

### 室町時代 (中世後期)

東辺87m、南辺111mを測る堀と、堀の内側から掘立柱建物の痕跡が見つかり、妻木町周辺を治めていた**土岐明智氏の居館とその周囲の堀**であったと推定されます。

\*掘立柱建物とは、地面に穴を掘りくぼめ、その穴に柱を直接据えた建物。(穴の底面に石を置く場合もあります)

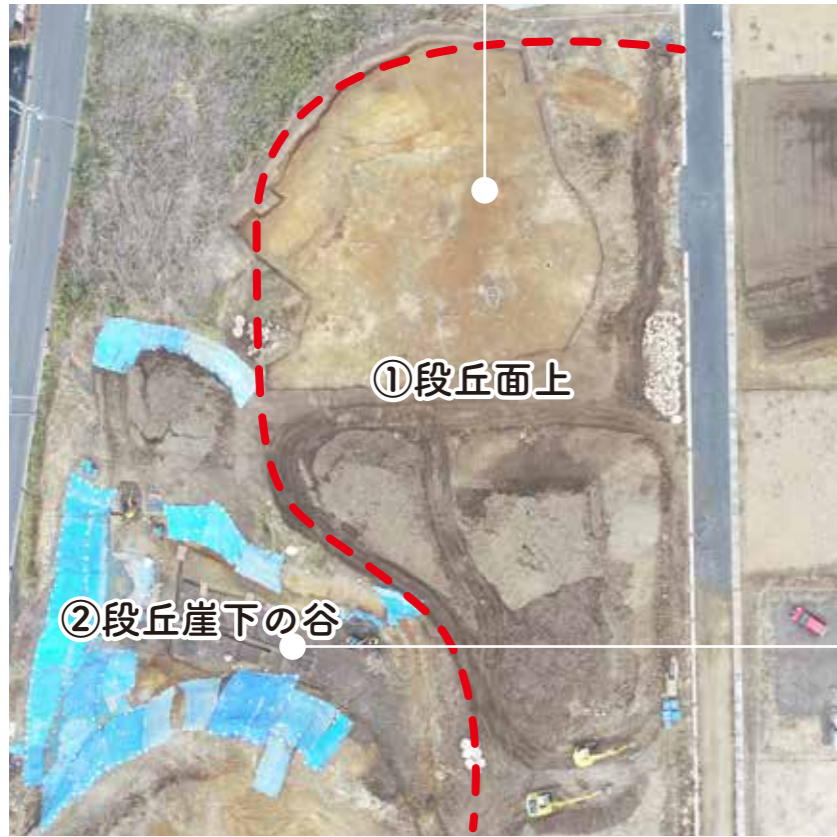
次に今回の調査で  
見つかったものを  
ご紹介します！



# 今回の調査で見つかったもの

## ①段丘面上

段丘面上からは、規模は不明瞭ですが鎌倉時代の掘立柱建物や柵列の痕跡、陶器等が確認されています。右図の赤線は柱の並びと推定される位置を表しています。



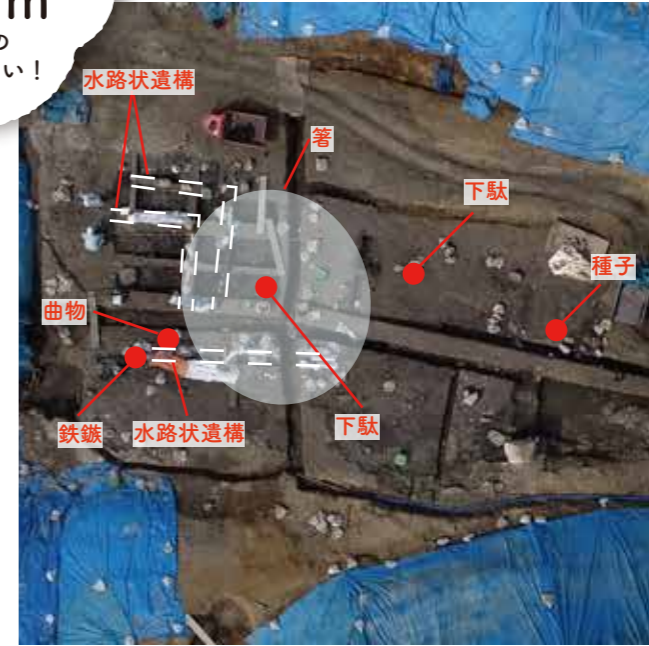
真上からみた調査区全体の写真

## ②段丘崖下の谷



谷の中の写真

比高差  
約6~7m  
2階建ての  
家の高さぐらい!



谷を真上からみた写真

鎌倉時代と  
室町時代に  
使われていました



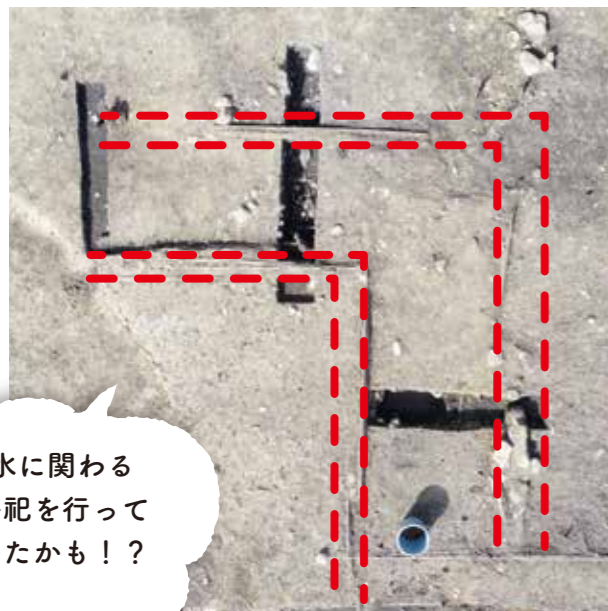
### 鎌倉時代

鎌倉時代は、木樋(水もくひを流すための木製の管)を用いた水路状遺構や陶器・木製品・鉄製品などが見つかっています。祭祀具と考えられるものが多数出土しており、この遺構が自然の谷底にあること、居住域の段丘面からは高低差があること、すぐ西側が妻木川であることから、日常的な使用には不向きであり、非日常的な空間であったと推定されるため、祭祀遺構の可能性が高いと考えられます。

### 室町時代

鎌倉時代以降は出土遺物も少なくなるため、祭祀空間としては使われなくなり、自然の谷の状態であったと推定されます。室町時代に入ると、この谷が土岐明智氏の居館の北辺の堀として用いられたようです。すぐ西側が妻木川ですので、自然地形を巧みに利用した天然の要害であり、非常に防御性の高い居館であったことがうかがえます。

水路状遺構の中やその周辺から箸状木製品や下駄などの木製品、鉄鏃、墨書土器、種子などが多数見つかっています。いずれも日用品ではなく祭祀具の可能性がります。



水路状遺構

水に関わる  
祭祀を行って  
いたかも!?



箸状木製品 (鎌倉時代)

箸状木製品は、まとまってあるいは突き刺さった状態で非常に多く出土しており、先端が炭化しているものも一部ありました。このため日常生活に使用したものではないと推定されます。箸状木製品は、古代の祭祀具である斎串に代わる祭祀具としての性格を持っていたと考えられます。



鉄鏃 (鎌倉時代)

先端が二股に分かれるかりまた雁股式の鉄鏃です。茎部に無数の穴を空けた楕円形の木製部品を付けたなげや鏃矢の可能性がります。鏃矢は矢を射ると音が鳴るため、魔除けの儀式や天下太平や護国豊穰を祈る儀式にも使用されました。



下駄 (鎌倉時代)

下駄は台地を踏みならして音を出し、地霊を鎮めたり、喚起したりして悪霊を祓ったり作物豊作の祈願をする祭祀具として使用されたと考えられています。



種子

種子が20個以上まとまった状態で出土しています。祭祀遺構には祭祀具と共に種子も一緒に確認されることが多いです。



曲物 (鎌倉時代)

曲物も祭祀具と一緒に出土することが多いため、神様への捧げ物として使用された可能性があります。出土した曲物の底板は失われてしまいました。



墨書土器 (鎌倉時代)

墨書土器は墨で文字や記号が書かれた焼物で、主に河川や水辺から出土することが多いため、雨乞いや止雨祈願などの儀式に用いられたと考えられています。